



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2574号 2015.8.7 発行

不登校の子ども 2年連続で増加



NHKニュース 2015年8月6日

不登校の子どもは昨年度、およそ12万3000人に上り2年続けて増加したことが文部科学省の調査で分かりました。

文部科学省は児童生徒や学校などの状況を把握するため毎年、「学校基本調査」を行っています。

それによりますと、昨年度、30日以上欠席した子どものうち「不登校」の小学生は前の年より1691人多い2万5866人、中学生は前の年より

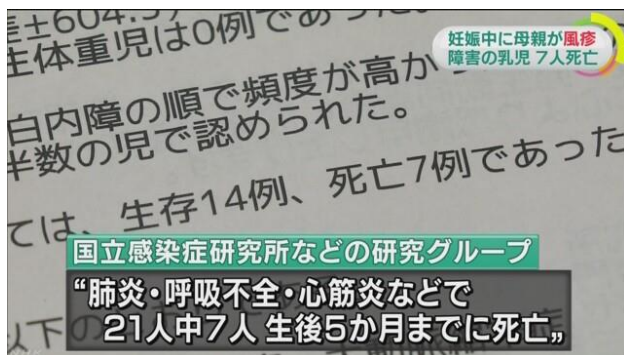
り1594人多い9万7036人と、合わせておよそ12万3000人に上り2年続けて増加したことが分かりました。

また、「けがや病気」による長期欠席が3万7846人、「経済的理由」で学校に來ていない子どもが73人いました。いずれの理由にも当てはまらない「その他」とされている子どもも2万人以上いて、文部科学省や教育委員会などによりますと、虐待や教育への無理解で親が学校に行かせようとしなないケースなども含まれている可能性があるということです。」

さらに、1年以上所在が分からない子どもは前の年より減ったものの依然として123人います。

文部科学省は「抱えている事情は一人一人違うので、学校だけでなく保護者やスクールカウンセラーなどと協力して支援策を考えていきたい」としています。

妊娠中に母親が風疹 障害の乳児7人死亡



NHKニュース 2015年8月7日

おとしまでの2年間で、妊娠中に母親が風疹にかかったことが原因で障害をおった赤ちゃん45人のうち、少なくとも7人が死亡していたことが、国立感染症研究所などの調査で分かりました。専門家は「ワクチン接種を徹底し、風疹をなくすことが重要だ」と指摘しています。

風疹は、妊娠初期の女性が感染すると生まれてくる赤ちゃんの耳や目、心臓などに障害が出る「先天性風疹症候

群」になるおそれがあり、平成24年から25年にかけて大人の間で風疹が流行した際には、45人の赤ちゃんが先天性風疹症候群になったと報告されています。

今回、国立感染症研究所などの研究グループが、このうちの21人について、その後の経過を詳しく調査したところ、生後5か月までに7人が、肺炎や呼吸不全、それに心筋炎などを起こして死亡していたことが分かりました。

また、どんな障害があるかについて調べたところ、70%以上の赤ちゃんで難聴や心臓の疾患が、また、およそ20%で白内障があったほか、肝機能や精神発達の障害などもあったということです。

調査を行った国立感染症研究所感染症疫学センターの砂川富正室長は「先天性風疹症候群は赤ちゃんに非常に重篤な症状をもたらすことが分かった。風疹の流行をなくすことが重要で、ワクチン接種の徹底が必要だ」と話しています。



<Eパーソン>血液でうつ病診断へ 河北新報 2015年8月7日
[かんの・りゅうじ] 東京理科大卒。横河電機を経て、99年横河アナリティカルシステムズ社長。08年HMT社長、13年東証マザーズ上場。65歳。にかほ市出身。

◎HMT 菅野隆二社長

バイオベンチャーのヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ（HMT、鶴岡市）は、大うつ病性障害（うつ病）の診断に役立つバイオマーカーを発見した。うつ病の診断が大きく変わる可能性があり、1、2年後の実用化を目指し、試薬メーカーと診断キットを開発中だ。（聞き手は山形総局・長谷美龍蔵）

—うつ病の診断に役立つバイオマーカーとは。

「血液に含まれるエタノールアミンリン酸（PEA）で、脳が気持ち良いと感じる物質だ。慶大先端生命科学研究所（鶴岡市）の代謝産物を調べるメタボローム解析で、うつ病患者と健常者のPEA濃度を比べた結果、うつ病になると9割の確率で濃度が低下することが分かった。高い人はうつ病でないとは言い切れないが、診断の定量的な指標になるとして、2013年に特許を取得した」

—診断はどう変わる。

「現状は専門医が問診し、一定項目に該当すると、うつ病と診断する。気分が沈んだ人が正しく答えられるとは限らず誤診のリスクが高い。これが、簡単な血液検査でうつ病かどうかははっきりする。最後は問診を含めた医師の総合判断だが、数値的根拠に基づく診断になる」

「薬のやめ時を見極められることも大きい。快方に向かうと気分が良くなり、患者が独断で服用をやめてしまって再発するケースが少ない。本当に治ったかどうか、患者の主観ではなくPEA濃度で判断できる」

—実用化の見通しは。

「大病院や臨床検査センターにある機器でPEA濃度が測れるよう、試薬製造システムクス（兵庫県）と診断キットの開発を進めている。クリニック用の簡易な測定キットはHMTが製品化を目指す。どちらも研究試薬なら1、2年で実現できる。体外診断薬として保険適用されるには、さらに1、2年が必要だ。今から4年後、19年には1回600円程度でPEA検査を受けられるようにしたい」

—業績はどう伸びそうか。

「うつ病患者は国内に100万人、世界に3億人といわれる。PEA検査が広がればHMTの収益は間違いなく大きく伸びる。現状は売上高のほぼ全てがメタボローム解析事業だが、やがてバイオマーカー事業が逆転し、桁違いに成長するだろう」

「13年12月に東証マザーズ上場を果たした。うつ病のマーカー事業をうまく着地さ

せられれば、そう遠くない時期には1部上場を実現できるはずだ」

<母乳ストーリー> 母親の孤独 中日新聞 2015年8月7日



赤ちゃんの体重測定をする母親たちを見守る助産師の福山真優子さん(右)。自身も母乳で悩んだ＝東京都港区で裸ん坊の赤ちゃんが、体重計に乗せられた。「あ、大きくなってる」。母親の顔がほころんだ。東京都港区の産婦人科「白金高輪海老根ウィメンズクリニック」で、先月下旬に行われた「新米ママクラス」。助産師の福山真優子さん(30)が優しく見守っていた。

クリニックで母乳外来を担当する福山さんは、長男(3つ)を出産後、母乳で悩んだ。切迫早産の危険から、妊娠中は胸のマッサージができなかった。二〇一二年五月に、里帰り先の石川県七尾市の病院で生まれた長男は、体重二五〇〇グラムで小さめ。乳首をうまく吸えなかった。「吸ってくれないと母乳が出ない」。乳首を刺激するため、一日十回も搾乳した。

「おしっこウンチが一定回数出れば、母乳は足りているから大丈夫」。日頃、新米ママにこう指導していた。それなのに自分は不安で、授乳のたびに長男の体重を測定。体重は思うように増えず、粉ミルクを足した。母乳育児を勧めてきた助産師としての誇りはズタズタ。「一日中おっぱいを出して、母乳を飲めない子どもと格闘していた。孤独だった」

三週間後、都内に住む指導役だった助産師に泣きながら電話で相談した。「このままじゃ母乳で育てられない」。助産師は石川県まで来て、胸や背中をマッサージして吸わせ方も一緒に考えてくれた。一カ月ほどすると長男は徐々に強く吸えるようになり、母乳は安定して出るようになった。

「産んだら母乳は勝手に出ると思っていた。母乳育児には、ものすごい苦労が伴う」。こう話すのはクリニックの産婦人科医、海老根真由美さん(44)だ。

海老根さんも長男(7つ)を出産後、母乳育児でつまづいた。産婦人科医といえども、母乳に関しては素人だと痛感した。「母乳で悩み傷ついた経験から、母親たちに寄り添いたい」。別の病院で一緒に働いたことのある福山さんに声をかけ、一三年六月に開業した。

クリニックには、母乳で苦労した産婦人科医がもう一人いる。同年九月に第一子の長女(1つ)を産んだ医師(43)。高齢の帝王切開で母乳が出にくく、患者としてクリニックの母乳外来に通院していた。

「産婦人科医院はお産で忙しく、母乳指導する余裕がないところが多い。短い入院中に母乳育児を軌道に乗せることは難しく、退院後こそ支援が必要だと気付いた」。一四年二月、クリニックの仲間に加わった。

クリニックは土日祝日も含め毎日開いている。「助産師も医師も母乳で悩んだ経験から、いつでも誰でも駆け込める場所にしたいと思った」と海老根さん。働いている人や父親も参加できるように、妊婦向けの母親学級は日曜日に開催。妊娠中から、母乳が出る仕組みなどを教えている。

産後の育児支援に力を入れるのは、もう一つ理由がある。海老根さんは以前、埼玉県内の大学病院に勤務し、切迫早産など緊急性の高いお産を担当した。だが退院後に赤ちゃんが虐待で亡くなったり、母親が虐待で逮捕されたりする事件を目の当たりにした。

厚生労働省の調査でも、一三年までの十年間に虐待で死亡した子ども五百四十六人のうち、一歳未満が44%の二百四十人。生後一カ月未満は百十一人で、加害者の91%が実母だった。海老根さんは「核家族化で、一人で育児を背負いがちの母親たちを救っていきたい」と話す。(細川暁子)

生活クラブグループが新たな福祉政策をスタート！「生活クラブ安心システム連合」を設立

産経新聞 2015年8月6日

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

高齢者や地域のあらゆる人が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるようサポートします。

2015年7月、生活クラブ生協を母体とする3つの社会福祉法人と生活クラブ共済連によって、「生活クラブ安心システム連合」が設立されました。これまで700以上の福祉事業所を展開してきた生活クラブグループが、地域密着型の福祉への取組みをさらに充実させます。「生活クラブ安心システム連合」に参加する福祉事業者は、要介護者に対する制度外のケアを含めた在宅生活支援や、地域の孤立しがちな高齢者や障がい者、生活困窮者等への地域生活支援に積極的に取り組みます。



■設立総会を開催

7月8日、「生活クラブ安心システム連合」の設立総会が東京都内で開催されました。設立にあたって準備をすすめてきたのは、生活クラブ生協の活動を母体とする3つの社会福祉法人、悠遊（東京）、いきいき福祉会（神奈川）、生活クラブ風の村（千葉）、そして生活クラブ共済連です。会場には、設立4団体と各地の生活クラブ生協、関連団体、提携生産者などから100名を超える参加者が集まり、連合が掲げる地域福祉の基本方針「生活クラブ安心システム」を含む議案がすべて満場一致で可決されました。

■「生活クラブ安心システム」とは

「生活クラブ安心システム」は、要介護者を含めた高齢者や地域のあらゆる人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう、福祉事業者が積極的に関わり支援するためのしくみです。

安心システムには、地域住民を対象にした《安心支援システム》と、要介護者を対象とした《安心ケアシステム》の2つがあります。

《安心支援システム》では、事業所はその地域の人々の日常生活圏全体に責任を持ち、孤立しがちな高齢者、障がい者、生活困窮者なども地域社会の一員として、安心して生活を続けられるように支援します。

《安心ケアシステム》では、事業所の利用者の在宅生活をできる限り支え、制度外のケアを含めて最期まで地域社会での生活を続けられるように「支えきる」ことをめざします。また、高齢者が自立した生活を続けられるよう、日常のケアについても家庭浴やトイレの使用などを含む10の原則を設けています。

■参加団体が身近な地域で安心システムを実践

今後は3つの社会福祉法人を中心に実践を重ねると同時に、生活クラブグループ内で趣旨に賛同する団体を募り活動を拡げていきます。会員団体はサポートするエリアを設定し、安心システムの基本方針をもとにオリジナルの「私の街の生活クラブ安心システム」を作成し実践します。連合は会員団体への助言や支援を行ない、技術習得のための研修等を開催します。

なお、「生活クラブ安心システム連合」は、全国組織である「安心システムユナイテッド」（2015年4月29日設立）に協賛しています。「安心システム」を掲げた地域福祉の取り組みは生活クラブグループの外にも広がっています。

詳しくは生活クラブ安心システム連合事務局までお問い合わせください。

TEL: 03-5285-1865（担当：岡村）

年を重ね、複数の持病を抱えるようになると、薬の種類や量が増え、患者が薬を管理し、医師の指示通りに飲むのは負担が大きい。認知機能が衰えてきたら、なおさらだ。医師の指示で患者の自宅を訪ね、薬を飲む工夫を助言する薬剤師の役割が改めて注目されている。

薬を正しく飲んでもらうには

医師向けの「健康長寿診療ハンドブック」
（日本老年医学会から）

□服薬数を少なく
降圧剤や胃薬など同じ効果の2～3剤を、効果が強い1剤か、複数の成分を含む1剤へ



□服用法の簡便化
1日3回服用から2回あるいは1回へ切り替える。食前、食後、食後30分など服用方法の混在を避ける

□介護者が管理しやすい服用法
出勤前、帰宅後などにまとめる

□剤形の工夫
口腔内崩壊錠や貼り薬の選択

□薬を一つの袋にまとめる「一包化」の指示

□服薬カレンダー、薬ケースの利用



クリアファイルやコピー用紙で作った日めくり式の「お薬カレンダー」

東京都品川区にある三光薬局大崎店の管理薬剤師・笠松喜代美さんは約15年前から患者の家を訪れ、薬が飲めているか、相談に応じている。

7月のある土曜日。笠松さんは一人暮らしの女性(79)の家を訪ねた。週の半分は弟(73)が泊まりに来る。

女性は、甲状腺の専門病院と整形外科、神経内科、眼科を4医療機関で受診し、計9種類の飲み薬が処方されている。半数は朝食後だが、夕食後や就寝前、朝食後と就寝前に飲む薬も。処方期間も180日、84日、30日とばらばらだ。「自宅で管理して、間違わずに飲むのは、難しい種類と量ですよ」と笠松さん。

受診の帰りに女性から処方箋(せん)を受け取り、薬は薬局で預かり2週間ごとに自宅へ届ける。家に着くと、笠松さんは日めくり式の「お薬カレンダー」を袋から取り出し、冷蔵庫のドアに日付順にかけた。

女性は視力が弱く、1週間分のカレンダーでは、字が小さく見えづらい。認知症もあって飲み間違えるので、笠松さんが日めくり式を女性と弟に提案した。A4判のクリアファイルとコピー用紙を使った笠松さんの手製だ。枠に「朝」「昼」「夕」「寝る前」とペンで書いてある。

各医療機関の主治医に、複数の薬を薬局で一袋にまとめる「一包(いっぽう)化」の指示を出してもらい、医療機関別に小袋に入れて

てホッチキスで留め、カレンダー枠にテープではる。

入院ベッド必要数4000減 団塊世代が全員75歳超す2025年 県推計

■県内の入院ベッド数

| 2次医療圏 | 2014年度の病床数(床) | 2025年の推計値(床) |
|-------|---------------|--------------|
| 県全体 | 15,928 | 11,827 |
| 津軽地域 | 4,414 | 3,270 |
| 八戸地域 | 3,715 | 3,231 |
| 青森地域 | 4,281 | 3,050 |
| 西北五地域 | 1,329 | 647 |
| 上十三地域 | 1,498 | 1,176 |
| 下北地域 | 691 | 453 |

朝日新聞 2015年8月6日 青森

県は4日、「団塊の世代」全員が75歳以上となる2025年に県内で必要となる入院ベッド数について、14年度比で4101床減の1万1827床とする推計を公表した。入院から在宅医療の充実や介護への転換を進めることで、必要数が減少するとした。

推計は厚生労働省が定めた算定方法で算出した。県は今年度中に推計を盛り込んだ「地域医療構想」を策定する。2次医療圏別で見ると、最もベッド数が多い津軽地域では14年度比で25.9%減の3270床。西北五医療圏は51.3%減の647床となった。

国には増加し続ける医療費を抑えたいとの狙いがあるが、入院を減らしても在宅医療や介護でも費用がかかることから抑制効果は不透明だ。また、受け皿となる介護施設や在宅医療を担う医師や看護師が不足しているとの指摘もある。

県は「安心して在宅で医療を受けられる体制づくりが必要」として、退院する際の支援や在宅医療を担う医師や看護師、介護士らとの連携、容体の急変時の対応などを検討していく。また、県と県医師会は在宅医療を担う関係者の拠点づくりや研修などに着手している。

構想の具体的な内容を検討する県医療審議会医療計画部会の部会長を務める県医師会の村上秀一副会長は「急激なベッド数の減少など県民に迷惑がかからないようにしないといけない。また、在宅医療は、山の中にある家でも冬場に困ることがないように、青森県の特性に合わせた体制にする必要がある」と話した。(姫野直行)

摩擦少ないシートやレジ袋活用…介護楽に 回す・押す・引く 抱え上げず、腰の負担軽く

読売新聞 2015年8月7日



スライディングシートと呼ばれる福祉用具などを使う「抱え上げない介護」が注目されている。ベッドに寝ている人の位置を修正する際に活用でき、介護をする方も、される方も、体にかかる負担が軽くなる。

「介護を担う人の7～8割は腰痛の経験があるといわれ、腰に負担のかからない介護法の普及が急務です」。そう話すのは「移動・移乗技術研究会」（東京）代表の中山幸代さん。抱え上げない介護を著書やセミナーなどを通じて紹介している。

「回す」「押す」「引く」ことで、抱え上げずに体を移動させる手法で、北欧などで普及しているという。初心者でも取り組める動作を二つ教わった。

一つ目は、ベッドで寝ている人を頭側に動かす方法＝イラスト上＝。背上げ機能のついた介護用ベッドは、食事などでベッドを起こす度に寝ている人の体が足元側にずれていってしまいがち。これを、スライディングシート

を使って元に戻す。

シートはナイロン製などで、2枚重ねにするとよく滑る。筒状のものや半分に折って使うタイプなどがあり、福祉用具店などで数千円で手に入る。

まず、枕に頭と肩を乗せ、枕から肩甲骨の下にかけてシートを敷き込む。次に、膝を立ててもらい、足裏に滑り止め用のシートを敷く。これは玄関マットの下などに敷くもので、100円ショップなどで買える。

肩や枕部分の摩擦抵抗が減っているため、腰を少し浮かして脚を踏ん張るだけで、体が上方へ移動する。自力で腰を浮かせられない場合は、スライディングシートか厚手のポリ袋をお尻の下にも敷き、介助者が太ももの裏にバスタオルなどを回して補助する。

二つ目は車いすでの活用法＝同下＝。座面からずり落ちないように、深く座り直してもらった際に使う。「厚手のポリ袋やレジ袋が意外と便利です」と中山さん。

用意する袋は2枚。お尻の左右に1枚ずつ敷き込む。袋に両手を入れ、お尻の下に差し込むようにすると敷きやすい。

次に、要介護者は体を前に倒し体を左に傾ける。お尻の右側が浮くので、介助者は右膝の下や腰のあたりに手を添えて優しく押す。お尻の左側を支点にして回転させるように移動する。逆側も同様の動作をして、何度か繰り返せば、徐々にお尻が後ろに下がり、深く腰掛け直せる。

ある程度、筋力がある人なら自力で元に戻ることも可能だ。「本人の状態をよく観察し、できることは一緒にやってもらおうと能力が生かせ、介助者も楽です」。移動が終了したら袋はすぐ抜き取る。

こうした、抱え上げない介護への関心は年々高まってきている。厚生労働省も2013年、「職場における腰痛予防対策指針」を19年ぶりに改定、腰痛予防のため、介護現場での人力による抱え上げを原則禁止とした。

「日本ノーリフト協会」(神戸)代表理事の保田淳子さんは「福祉用具を取り入れることで、介護者は腰痛を予防でき、要介護者は体を力任せに引っ張られる痛みや怖さがなくなる。一手間かかるが、長い目で見れば使うメリットは大きい。ぜひ活用して」と話す。

介護保険利用者が最多 14年度

朝日新聞 2015年8月7日

2014年度の介護保険サービスの利用者数は588万3千人で、前年度より22万2500人(3.9%)増えて過去最多を更新した。厚生労働省が6日に発表した介護給付費実態調査でわかった。1人あたりのサービス利用額(15年4月審査分)は15万7800円で、前年同月より600円増えた。

所在不明の子供4年連続減少 大阪府内

産経新聞 2015年8月7日

大阪府内で1年以上所在が分からない子供(6~14歳)が今年5月1日時点で、前年同時期比36人減少し、18人になったことが、府がまとめた学校基本調査(速報値)で6日、分かった。

18人の内訳は八尾市9人▽堺市3人▽大阪市、泉佐野市各2人▽東大阪市1人▽太子町1人。府内の所在不明の子供は平成23年時点で153人だったが、自治体が所在確認を徹底、4年連続の減少となった。

また26年度、学校を1年間に30日以上欠席した府内の子供は、小学生で5801人(前年度比195人増)、中学生で1万1997人(同480人減)だった。

このうち病気や経済的な理由を除いた不登校は、小学生が前年度より51人増の1925人、中学生で27人減の7976人

貸し切り車内で迫力映像 ドラマ「阪堺電車」撮影開始 大阪

産経新聞 2015年8月7日

NHK連続テレビ小説「てっぱん」などで知られる堺市出身の脚本家、今井雅子さんが監修し、大学生が映像化することが決まっていたオムニバスドラマ「阪堺電車」の撮影が、実際の阪堺電車内で始まった。

何げない日常の中に人間模様を見いだそうと平成25年に堺市が主催したワークショップで、高校生たちが阪堺電車を舞台にして作った6話のシナリオを今井さんが1本にまとめた。

市からの働きかけで、羽衣国際大学(堺市西区)の放送・メディア映像学科の学生たちがメガホンを取って6話オムニバス約40分の作品に仕上げることになり、阪堺電車の我孫子道一浜寺駅前間を走る貸し切り電車内で撮影が行われた。

車内で突然の腹痛に襲われながらさまざまな出来事に巻き込まれるサラリーマンを面白おかしく描いた「便意」は、シナリオの作者である喜多陽向(ひなた)さん(18)=大阪経済大1年=が主演。狭い電車内で、学生のスタッフや出演者らは「オッケー」が出るまで何度もシーンを撮り直した。

喜多さんは「演劇経験がないので表情や動きで気持ちを表現するのが大変でした。みなさんに笑ってもらえたら」と満足そう。

監督を務めた羽衣国際大3年の宮城成伶（せれな）さん（20）は「電車が駅間を走る数分でシーンを次々と撮っていくのが難しく、コツをつかむまで泣きそうになった。みんなががんばってくれたので迫力と見応えのある映像が撮れたと思う」と話した。

撮影は年内いっぱい続き、来年2月に羽衣国際大の学内で試写を行い、インターネットでも公開する。

温州ミカン、機能性表示へ 「生鮮食品で初」の見通し 共同通信 2015年8月7日

食品が体にどのように良いかを国の許可なく表示できる「機能性表示食品」として、消費者庁が浜松市のJAみっかびの温州ミカンの届け出を近く受理する方針を固めたことが6日、政府関係者への取材で分かった。

4月の制度開始以降、60件超の加工食品が受理されたが、生鮮食品では初となる見通し。

JAみっかびは、温州ミカンが含む成分「β-クリプトキサンチン」には骨の健康を保つ効果があるとの研究結果を消費者庁に提出していた。届け出から60日後以降に、包装に機能を表示できるようになる。

8月7日付・壁に挑む者 四国新聞 2015年8月7日

美容師に髪をカットしてもらおう。おしゃれな服を着る。仕事をする。一人旅をする。そんな当たり前のことが車いす生活の著者には「大きな壁」となって立ちはだかる。その壁にどう立ち向かったのか。本書には彼の前向きな考えがつつられている。

人間力大賞で準グランプリに輝いた観音寺市の毛利公一さんが「夢をかなえる挑壁思考」を自費出版した。棒高跳びの選手だった毛利さんが目の前の課題を壁にたとえ、バーを一段一段クリアするように、絶望をチャンスに変える心構えを説く。

五輪を目指すほどの選手だった学生時代、米国留学中の遊泳事故で一命を取り留めたものの、「一生、寝たきり生活で、人工呼吸器も外せない」と宣告。だが持ち前の負けん気で、いまでは車いすで外出もするし、おしゃれも楽しんでいる。

「雇ってもらえないなら、会社をつくってしまえ」「ただの福祉イベントでは人が集まらない。みんなが楽しめる行事をやって、福祉のことも一緒に考えてもらおう」と発想は驚くほど大胆。

観音寺市の商店街であす、彼の思いの詰まった「ふれあい夜市」がある。昭和時代の夜市をイメージした、屋台が繰り出す交流の場。スポーツ、音楽、そして福祉と、3部門のコラボが彼の真骨頂といえよう。

「世間的には障害者と呼ばれる体だが、壁を乗り越えて生きていくことに健常者も障害者もない」と語る毛利さん。だから、障害者のことを壁に挑む者「挑壁者」と呼ぶことにしたという。(Y)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行